を明らかにするために施行された。

本態性多種化学物質過敏状態と診断された集団の傾向として、薬物代謝酵素(GSTs)を欠損している例が多いこと、健常者の集団と一部異なる遺伝子発現パターンを有すること、神経学的に明らかに異常所見を有する者が多いことが推察されたが、母集団が極めて小さいことから、これらの結果と過敏状態との関連性は未だ断定することは出来なかった。

＊本研究で採用した、本態性多種化学物質過敏状態の診断基準を示す。

旧厚生省長期慢性疾患総合研究事業アレルギー研究班（班長：石川哲）による